

故小倉剛准教授遺児育英基金募金

趣 意 書

謹啓

深秋の候、皆様におかれましてはご清祥のことと存じます。

さて、琉球大学農学部亜熱帯農林環境科学科の元准教授の小倉剛先生は、本年9月4日沖縄県久高島沿岸で、サーフィン中に事故に遭われ急逝されました。享年48才でした。

小倉先生は、大阪府のご出身で、地元の高校を卒業後に昭和56年琉球大学に入学され、昭和60年に農学部畜産学科を卒業、続いて農学研究科に進学されました。昭和62年琉球大学大学院農学研究科修士課程（畜産学専攻）を修了後、(株)CSK実験動物研究所伊那リサーチに入社、その後、中外製薬株式会社の開発研究本部安全性研究所に配属されました。本研究所で9年間勤務された後、平成8年4月に琉球大学農学部助手に採用されました。平成17年に助教授に昇任され、平成19年に准教授として配置換となりました。

小倉先生の主な研究内容は、沖縄島のジャワマングースに関する調査・研究であり、1996年の研究開始以来、沖縄島におけるマングースの完全排除に資することを目標とした一貫した基礎および応用研究です。学問分野を絞って種横断的に研究を展開するのではなく、沖縄島に移入された外来種であるジャワマングース（2004年5月に成立した「外来生物法」により「特定外来種」に指定）に焦点を絞り、学問分野を横断して研究を展開されたことが大きな特徴です。この展開は「マングース対策事業を通して研究成果を地域社会に還元する」方針をかかげたことに拠るものであり、研究の成果は国際的にも高く評価されています。小倉先生のこれまでの研究成果とその展開を簡潔に時系列で示します。

1) 1996-2000年：沖縄島に移入されたマングースの管理に関する基礎的研究，特に種の同定，被害状況，成長，繁殖，駆除方法に関する研究

マングースの成長，形態，解剖，食性の面からの基礎的追究を行っています。世界的にも数少ない外来生物に関する生物学的基礎研究の先駆的研究であり，名古屋大学から農学博士の学位を取得され，本邦初のマングースに関する学位論文となりました。

2) 2000-2005年：琉球列島における移入動物マングースの生活史，影響の現状および駆除方法に関する研究

マングース移入の影響（在来種に及ぼす影響と動物由来感染症）を把握すると共に新たに駆除対策に成果を反映できる応用研究を進展させました。その成果は，行政（環境省と沖縄県），企業（駆除受託会社）および琉球大学が特定地域における外来種対策を協働して推進する端緒となりました。

3) 2006-2008年：ヤンバルクイナの生息域外保全と野生復帰環境整備技術の開発

本研究では，環境技術開発等推進費の援助を得て，ヤンバルクイナをはじめとする在来種の生息に対する負の影響が特に大きいと考えられる特定外来生物ジャワマングースを，貴重な在来野生動植物種の生息する「やんばる地域」から完全に排除するための技術開発を行いました。

1)～3)の研究成果に対して，「沖縄島に移入されたマングースの応用動物学的研究」として，2009年に公益財団法人沖縄協会から「第31回（平成21年度）沖縄研究奨励賞」が授与されました。

4) 2009-2011年：侵略的外来中型哺乳類の効果的・効率的な防除技術に関する技術開発に関する研究，並びにマングース超低密度個体群の根絶技術開発に関する研究

マングースの低密度個体群の探索と捕獲技術の確立を目的に，残存個体の生息数推定や探索技術開発，さらに捕獲技術開発を進展させました。今年度からは，移動防止用の簡易柵の開発，避妊ワクチン開発および在来ネズミ類の混獲防止技術開発に取り組み始め，今後も新たな技術開発が期待されていたところでありました。

以上のように、小倉先生のご研究は、地域社会への貢献を念頭におきつつマングースに焦点を当てて行われた生物学的基礎及び応用研究であり、その業績は新たな環境農学の一分野を築くとともに、琉球大学農学部を支えるひとつの柱として高く評価されていました。

小倉先生の研究の推進に当たりましては、国内外の多くの研究者や関係者が多方面からの協力を惜しみませんでした。研究、地域貢献に対する強い情熱はもちろん、小倉先生の温厚誠実で紳士的なお人柄に魅了された面もありましょう。また、研究を推進する過程では、学生に熱心かつ丁寧な指導が行われ、先生を慕う多くの門下生が輩出されています。

所属する国内の学会関係者や外来種関係の海外の研究者からも、小倉先生を失ったことによる損失の大きさと無念さ、親愛の情が表明されています。

琉球大学農学部は、小倉先生が積み重ねられたマングースを対象とする外来野生動物の管理に関する研究を、国内外で高い評価を得られた研究として位置づけ、今後の展開にも大きな期待を寄せていました。小倉先生を失ったことは、農学部はもとより、琉球大学としても痛惜の極みであります。改めてここに小倉剛准教授の生前のご功績と人柄を偲び、衷心より哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り致します。

ご遺族は、昌子夫人・優香さん（高3）・雄史君（中2）の三人で、それぞれ大切な時期を迎えられるところであります。このような時期に、予期しない不幸な出来事にみまわれたご遺族の悲しみと今後のご苦勞は察して余りあるものがあります。特に、ご息達が生徒として巣立たれるまでの教育資金など、ご遺族にかかる負担はこの先にわたり心身ともに並々ならぬものがあると推察されます。

つきましては、このような事情を考慮致しまして私ども関係者で相談し、ご家族を励まし、今後のご息達のご成長の一助として幾ばくかのお役に立てて頂くことを念願し、この度、遺児育英基金を募ることと致しました。何卒、ご高配の上、皆様のご賛同とご協力を賜りたく存じます。

敬具

平成23年10月22日

記

1. 応募金額 一口 2,000円
2. 募金期限 平成24年3月31日
3. 送金方法 郵便振替
口座番号 17040 9041321
小倉剛准教授遺児育英基金 (オグラゴウジュンキョウジュエイジイクエイキキン)

※ゆうちょ銀行以外の金融機関からお振込みの場合

ゆうちょ銀行

店名 七〇八 店番 708

預金種目 普通預金

口座番号 0904132

小倉剛准教授遺児育英基金 (オグラゴウジュンキョウジュエイジイクエイキキン)

4. 運営管理事務局
〒903-0213 沖縄県西原町千原1番地 琉球大学農学部
中村 真也
Email: s-naka@agr.u-ryukyu.ac.jp , Tel & Fax 098-895-8786

なお、領収書については、後日決算書の送付をもって代えさせていただきます。銀行振込みの方で、領収書が必要な方は、お知らせ下さい。

5. 発起人
琉球大学学長 岩政 輝男
琉球大学農学部長 川本 康博
琉球大学農学部教授 諸見里善一
琉球大学農学部教授 砂川 勝徳
他、有志一同